

うじたわら町 議会だより

Ujitawara Town Council Information

No. **51号**

2007. 5



日本一の玉露をめざした初摘み

●目次(CONTENTS)

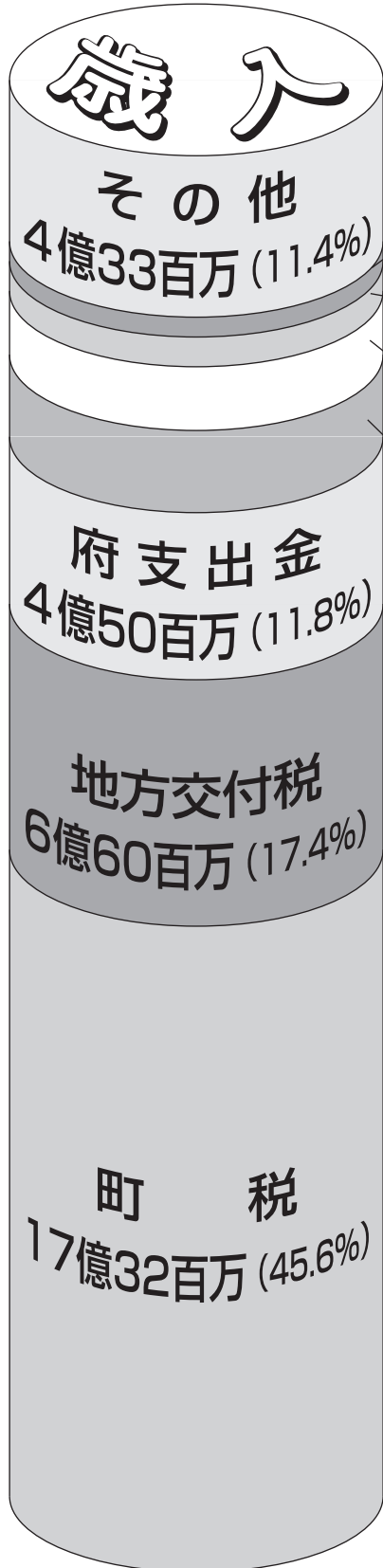
●3月定例会	2P
●補正予算・制定・改正した条例	4P
●予算特別委員会の審議から	5P
●一般質問	9P
●決議・研修報告	15P
●インタビュー・編集後記	16P

2007年5月1日 (火) 発行

発行 ● 宇治田原町議会
編集 ● 議会広報編集委員会
京都府綴喜郡宇治田原町荒木
西出10(〒610-0289)
TEL.(0774)88-2250(代表)
(0774)88-6641(直通)
FAX.(0774)88-6617
メールアドレス gikai@town.ujitawara.kyoto.jp

総額73億38百万円

一般会計 38億3百万円



地方譲与税
53百万(1.4%)

国庫支出金
78百万(2.1%)

繰入金
1億72百万(4.5%)

町債(借入金)
2億20百万(5.8%)

3月定例会

平成19年第1回定例会は、3月8日に招集され、28日に閉会した。
 町長の平成19年度施政方針演説をはじめ、予算関係16件(補正8件、当初8件)、
 条例関係11件(制定1件、改正10件)、その他の案件6件が提出された。

会計別の予算

会計名	予算額(千円)	前年度比較(%)	
一般会計	3,803,000	3.8	
特別会計	国民健康保険	995,399	13.7
	老人保健	996,265	△3.9
	介護保険	545,693	3.3
	奥山田地区簡易水道事業	49,820	2.9
	高尾地区飲料水供給事業	3,749	△3.2
	公共下水道事業	618,500	△0.9
水道事業会計	325,822	△0.7	
総額	7,338,248	3.2	

6つのプロジェクトで 平成19年度 予算決まる

主な事業

(単位)
千円

少子化対策プロジェクト

子育て支援医療費支給事業費	20,142
要保護児童対策事業費	120
保育充実事業費	707
ハッピー・マタニティ支援事業費	4,447

健康長寿日本一プロジェクト

高齢者の交流の場づくり事業費	200
脳の疾患早めの発見検診助成事業費	500
メールで健康2007事業費	980
ストップ!メタボリックシンドローム事業費	1,020

障がい者対策プロジェクト

障がい者相談支援事業費	3,800
障がい者仕事起こし事業費	200
障がい者自立支援給付等事業費	52,288

安心・安全プロジェクト

コミュニティ消防センター整備事業費	17,200
生活道路等緊急安全対策事業費	4,000
子どもの安心・安全対策事業費	4,568

教育・環境プロジェクト

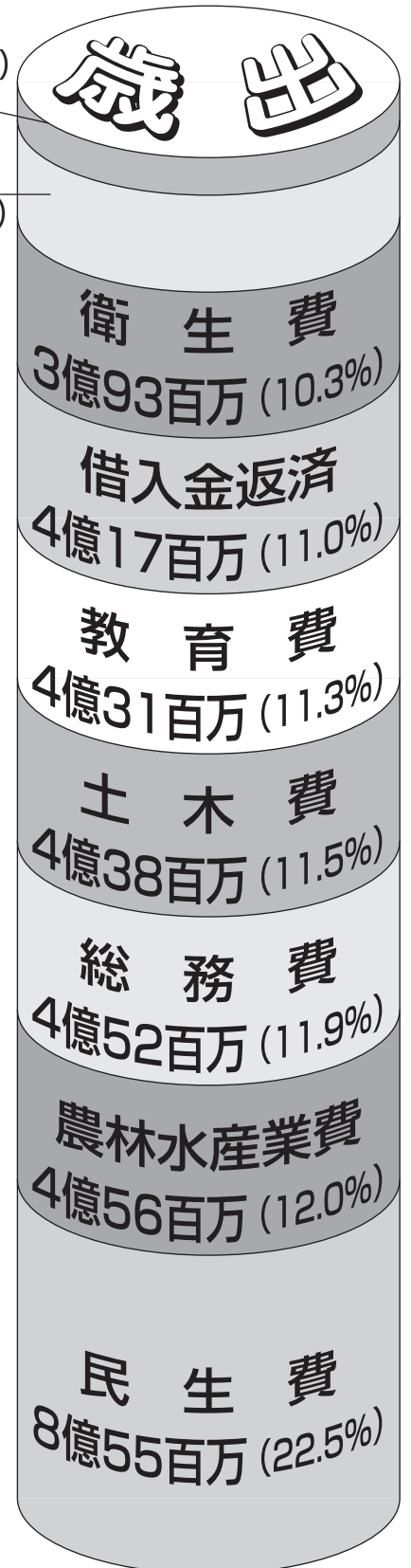
まち美化推進事業費	228
みんなでとりくむ環境対策補助事業費	3,600
校舎等耐震補強事業費	10,000
学力充実事業費	8,066

産業・観光活性化プロジェクト

地域商工業活性化事業費	2,000
ふるさといいところ発信事業費	2,360
「永谷宗圓茶文化賞」実施事業費	336
永谷宗圓生家修復事業助成金	2,000
集団茶園整備事業費	353,516

その他
1億34百万(3.6%)

消防費
2億23百万(5.9%)



3月定例会

改正した条例

【議員の委員会出席費用弁償を廃止】

厳しい財政状況を踏まえ、議員が常任委員会、議会運営委員会、予算・決算特別委員会、広報編集委員会等に出席した場合に、日当として支給されていた「費用弁償(1日2000円)」を廃止する。

【可決 全員賛成】

【乳幼児医療費の支給に関する条例を「子育て支援医療費」と改める】

乳幼児に係わる医療費については通院・入院とも出生日から小学校就学前までは自己負担200円を除いて無料となっていた。平成19年9月からは、さらに小学校卒業までの児童を支給対象とするように改正する。

【可決 全員賛成】

【組織条例の一部を改正】

後期高齢者医療制度や特定健康診査の実施など、福祉医療の制度改正や複雑多様化する福祉業務に重点的かつ機動的に対応できる組織とするため、従来の健康福祉課を健康支援課に、また循環型社会推進室を保健医療課に組織改正する。

【可決 全員賛成】

制定した条例

【まちをきれいにする条例】

自然豊かな茶文化のまちにふさわしい、清潔で美しいまちづくりを推進し、住民の快適な生活環境を確保していくために、町内におけるあき缶等のポイ捨てや飼い犬等のフンの放置、落書き行為の防止を図るため本条例を制定する。

【可決 全員賛成】



田原川をきれいに

平成18年度 補正した予算

会計予算名	補正額	補正後の予算総額
一般会計(第4号)	△6,521万円	36億2,919万円
国保会計(第4号)	△3,391万円	8億9,370万円
老人保健会計(第2号)	△1億2,438万円	9億2,665万円
介護保険会計(第3号)	△561万円	5億3,266万円
奥山田簡水会計(第3号)	△39万円	4,895万円
高尾飲供会計(第1号)	△19万円	367万円
公共下水道会計(第2号)	△1,964万円	5億9,974万円
水道事業会計 (第2号)	収益的収入	△430万円
	収益的支出	200万円
	資本的収入	971万円
	資本的支出	88万円

千円未満切捨て

このたびの補正予算は、決算見込みにもなう各種事業の確定などにより計上したもので補正額は次のとおりとなった。

【可決 全員賛成】

* 予算特別委員会の審議から *

予算特別委員会は13人で構成し、委員長に下岡貴史氏、副委員長に山本泰子氏を選び、3月20日から3日間の日程で審議した。

一般会計予算に対する

反対討論 (安本 修 議員)

庶民には大増税の一方、史上空前の利益をあげている大企業や大金持ちにたいしては減税の逆立ちした「貧困と格差拡大」予算。宇治田原町もこれに追随した冷たい予算である。町内の住民団体への補助金を削るよりも、無法ぶりと行政との癒着の実態が全国的に明らかになった部落解放同盟への助成金こそ一切やめるべき。子育て支援では、府の制度に乗せをして小学校卒業まで医療費が無料となる。父母や関係者の強い願いであり評価する。学童保育の時間延長は、放課後子どもプランを待つまでもなく実施すべき。教育では、競争を強め、子どもも学校もランク付けする全国一斉学力テストに子ども達を参加させるべきではない。国と受験産業が、全国の対象児童の個人情報握るのも大問題。合併任意協議会の基本構想案では中心部に多額の税金が使われ、周辺部となる宇治田原は、利便性が後退し、行政に住民の声が届きにくくなることは必至。財政シミュレーションでは「合併しなくてもやっていける」ことが明らかになり、大義は破綻した。任意協議会を続ける 予算は不要。町長の政治姿勢について、「反対者とは玄関口から意見がかみ合わない」、「合併しないでください」という真剣な中学生の問いかけに一言も答えない不誠実な対応、議員に対しての「町長室出入り禁止発言」など、反対意見は聞かないという態度は、「住民対話」を掲げる町長の方針とは相反する。以上のことから反対とする。

賛成討論

(森田 木一 議員)

本町の財政状況は、ますます厳しい内容にある。その予算の中から少子高齢化、安心安全、産業振興対策などに重点的に取り組まれており、特に子育て支援・医療費支援支給事業は府南部において例を見ない思い切った施策で予算計上されている。全体で10%の経常経費削減目標も達成している。山連への負担金については府南部17市町村が連携して人権問題に取り組むものであり、事業費の在り方について団体のなかで見直しが検討されている。市町合併については現在の財政だけで短絡的に判断するのは問題である。50年先を見据えた「まちづくり」について住民の意向を把握することが必要であり、本町だけが、これに加わらずにいることは将来に禍根を残すことになる。

反対討論

(今西久美子 議員)

賛成討論の中で、(共産党が)協議会で議論する必要があるといっているという話があったが、私たちは住民とこそ議論すべきであると言っている。子どもの医療費拡充については、条例に賛成し、反対討論の中でも評価をしている。予算に反対したからと言って、子どもの医療費拡充に反対したということではない。京都府議会では、森田議員が所属している公明党を初め、オール与党が、住民から提出された「子どもの医療費拡充を求める請願」に背を向け、反対されている。このことはどう説明されるのか。

予算案は一括で提案されているため、当然、全体として評価をして採決しなければならぬ。町長の基本姿勢にかかわって、住民の声を聞かないという根本的な問題があるということ指摘して反対討論とする。

予算委員会

主な質疑

◎ 予算関係

一般会計

総務関係

業はリースのほうが安上がりでは。

【質 問】
国際交流事業の効果と友好都市の考えは。

【質 問】
団であり、自主防災リーダーの研修などに取り組み、消防団の新年度体制の実態調査をすると共に、今後の課題や対策について検討し、消防防災力を高めていく。

【質 問】
今後は臨時職員の雇用で対応する。

福祉関係

【質 問】

子育て支援医療費支給事業の年齢が拡充され評価するが、府内のレベルは。

【答 弁】

北部で4市町、南部で2町が制度を取り入れる予定。少子化対策プロジェクトの一環として安心安全の子育て、さらに不安・負担の解消を進めていく。

【質 問】

みんなで取り組む環境対策補助事業の内容は。

【答 弁】

従来の補助は一定の役割を果たした。環境活動の環をを広げる新規事業である。

【答 弁】
19年度は年度途中から導入するので290万円と試算している。システム更新の関係でリースにした。

【答 弁】

お茶のルーツ啓発や子どもたちの作品メッセージを発信している。今後は調査派遣の計画立案を行う。

【質 問】

奥山田コミュニティ消防センター建設の交通安全対策は。

【質 問】

自主防災組織の取り組みと現状は。防災力を高めるためにどうするか。

【答 弁】

地元と協議をした。建物の方向や国道との安全面を考え建設する。

【答 弁】

地域の防災力の要は消防

【答 弁】

行政評価システムをどのような方法で住民に公表し、また評価するのか。

【質 問】

行政評価委員会を設置し検討協議し、進捗状況等は広報誌やホームページで公表する。方法は職員による評価、行政評価委員会による外部評価を考えている。

【質 問】

職員の人員配置について、嘱託職員が減っているが、考えは。

【答 弁】

行政サービスの向上を図る中で行革により見直した。



現在の奥山田消防器具庫

【質 問】
自動体外式除細動器設置を小学校にも設置しては。

【質 問】
財務会計システム整備事

【質 問】
固定資産税、滞納繰越分の徴収率は。定率減税が全廃となるが、考えは。

【質 問】
同和関連の分担金はやめるべき。

【答 弁】

様々な人権問題の解決に向けた取り組みを推進するため、関係組織の事業活動の見直し、組織の再編に向けて取り組んでいる。今後分担金など見直す予定。

滞納繰越分があるため徴収率が下がった。この分を除けば例年の徴収率となる。定率減税は国の施策であり、税制改正に基づくものと考えている。

【質 問】

【質 問】

自動体外式除細動器設置

【質問】

福祉バスの新ルートは。

【答 弁】

7月からバスを2台にし、1日2ルート24便に増やす。高尾については、週2回、1日3便の予定である。

【質問】

高齢者地域活性化推進事業の実績は。

【答 弁】

岩山地域のフラダンスグループに20万円支出した。制度をPRしているが、申請が少ない。

【質問】

水環境づくりの調査結果と今後の取り組み内容は。

【答 弁】

木炭による水質浄化の効果はあった。今後、ピオトープを1箇所実施予定。

【質問】

高齢者交流の場づくりの計画は。

【答 弁】

区会館を計画しているが、地域において古民家を利用

できる交流の場所を探している。

【質問】

ストップ・メタボリックシンドローム事業について、どのような効果をねらっているのか。

【答 弁】

喫煙者の吸気中に一酸化炭素がどのくらい含まれているか測定し、禁煙への動機付けとする。

農林土木関係

【質問】

商工会の町内共通商品券の有効期限の周知を。

【答 弁】

新商品券も2年間の有効期限を設定すると聞いています。できるだけ早期使用を促す啓発を進めるよう指導していく。

【質問】

ふるさといいとこ発信事業で、ルートに永谷宗圓生家を入れてはどうか。

【答 弁】

2ルートを設定し、地域の意見を聞いて、行程、道

標の設置をする。永谷宗圓生家は、町の指定文化財であり、茶文化の発信など観光面でのまちづくりの貴重なものであると考えている。

【質問】

有害獣駆除費が18年度より減額している理由と、猿の捕獲檻の設置の効果は。

【質問】

19年度は檻の計上がないので減っている。捕獲数では、昨年14頭、今年もすでに9頭捕獲し、効果は上がっている。

【答 弁】

【質問】

修学旅行生茶摘み体験招致事業の受け入れ状況は。

【答 弁】

中学2校から申し込みがあり、1校は調整中。毎年定着している学校もある。



永谷宗圓生家修復事業

木炭で川をきれいに！



教育委員会所管

【質問】

永谷宗圓茶文化賞の小中学生の入賞者に現金の賞金はいかがなものか。

【答弁】

中学生のアンケート調査結果では2割ほど食べていないことが判明した。府の調査では、生活習慣とテストの正当率は相関があり、生活習慣の確立が大切であると考えている。

【質問】

全国学力・学習状況調査の内容、目的は。個人情報保護の観点から問題があるのでは。

【質問】

小学校教室の暑さ対策で扇風機の増設を。

【答弁】

定期的な席移動により、体感温度について配慮している。

【質問】

放課後児童健全育成事業の入所状況は。

【答弁】

19年度は70人ほど入所申込があった。時間延長は放課後子どもプランとの関係

もあり、下校時の安全対策も含め検討していく。

茶史等編集事業の内容は。

有識者などの編集会議により、編集計画、執筆方法など具現化について協議していく。

町立図書館の図書購入費、放課後児童健全育成費の減額の理由は。

財政事情、決算見込額の精査により減額した。

総括審議

【質問】

今後の財政シミュレーションや重点課題の取り組みは。

【答弁】

新年度予算編成は経常経

費の削減を目標に全組織を上げて取り組んだ結果、目標以上の削減が図られた。今後も、経常経費の削減と事務事業の見直しに段階的に取り組み、平成22年度における歳入・歳出差し引き収支ゼロの大目標の達成に向けた財政運営を行う。

【質問】

集落内の生活道路改良事業予算が少ないのでは。

【答弁】

【質問】

市町合併問題では住民との対話をこそ一層進めるべきでは。

【答弁】

老人クラブなどでは「出前講座」として話をしている。議員も住民からの意見を聞いて、取りまとめてほしい。

【質問】

介護保険料において、税制改正に伴う激変緩和措置の対象者数は。

【答弁】

18年度は202人。19年度も引き続き激変緩和措置により軽減を図っていく。

公共下水道会計

【質問】

平成18年度末の普及率の見込みが48%となっているが、整備済み世帯数、水洗化世帯数は。

【答弁】

これは人口ベースであり、世帯ベースで行っていない。整備済み世帯は、約1,450世帯、水洗化世帯は、1,060世帯と見込む、19年度では約60世帯の整備を見込んでいる。



南老人クラブでの出前講座

障がい者支援のさらなる充実を



山本 泰子
議員

【質問】

06年4月より、「障害者自立支援法」が施行され、06年10月より原則一割の利用者負担が導入された。ワークホームれつつでは個人負担はどれくらいかかるのか。昨年12月末に国が「特別対策」を発表したが、どの程度軽減されるのか。また、ワークホームれつつが、町の委託で養護学校生の放課後を見守る「日中一時支援事業」を行なっているが、1時間700円の補助金を増額する予定は。

【答弁】

国の軽減措置は、①一割負担の上限を四分の一まで引き下げる。②収入、資産要件の緩和で軽減対象世帯を拡大。③新サービス体系

にただちに移行できない事業者への支援の三本柱。ワークホームれつつでは現在、自己負担はない。今年度中の新体系移行に向けて準備中であり、町としての国の制度を有効活用して、府とも連携し、スムーズな移行を支援したい。日中一時支

援事業の時間単価を、今年度から700円を1000

円に増額し、利用者負担を5%から2.5%に引き下げる。

田原川の整備と憩いの場所の増設を

【質問】

塩谷橋から山下橋間の浚渫と護岸の補強は、住民か

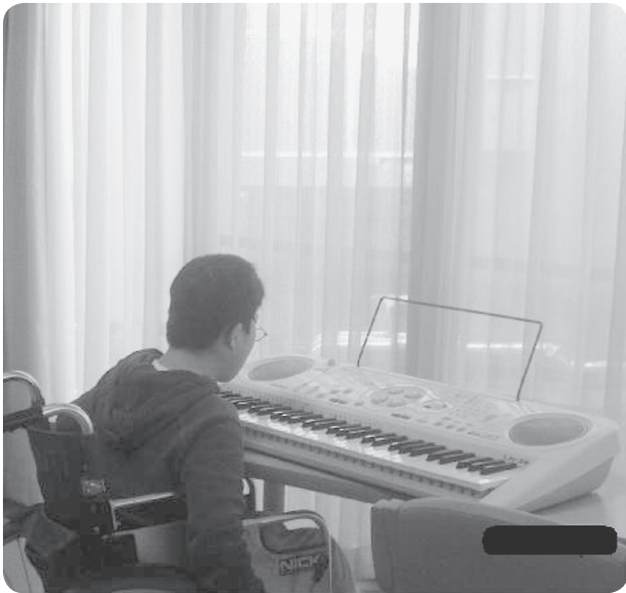
らの要望もあり、梅雨時の集中豪雨の前に対応されたい。また川を美しくすると同時に、やすらぎの道にベンチを置いたり、花壇を造るなど、憩いの場所を増やすことが必要では。

【答弁】
現地確認したところ、堆積土量はあまり多くないものの、ヨシ等の雑草が河川全体に生い茂り、長期間放置することにより、水の流れを阻害し、土砂、ゴミなどを堆積する要因となる。



ヨシの生い茂る田原川（塩谷橋下流）

草刈りだけでも実施する必要がある。府に要望する。憩いの場の増設については本年度秋以降に、犬打川合流点から流れ橋間の清掃作業を計画しており、合わせて河川親水施設の検討もしていく。



日中一時支援事業のようす

福祉バス運行経路の改善を

【質問】

隠谷地域に乗降場所を作って欲しいとの要望がある。この度、バスを2台に増やして、現行ルートの見直しを検討されているとの

ことだが内容は。土日の運行や昼前後の増便の予定は。

【答弁】

現在の月曜から金曜の1ルート9便を、2ルート12便、1日24便となるよう計

画している。隠谷地域の乗降や、土日の運行については、今後調査を重ね検討していきたい。

学校教育における 指導体制の強化を



垣内秋弘
議員

小学校統合に向けての 準備状況は万全か

【質問】

今教育現場の授業態度を

はじめ、プライベートに至るまで、一部に非行が蔓延

して従前にまして風紀が乱れているように聞いている。

学校関係、家庭、地域が一丸となって、一刻も早く防止に努めなくてはならない。現状認識と対応策は。

【答弁】

生徒が有意義な学校生活を送るには、教師力の向上

が不可欠で、教職に対する使命と情熱、社会的良識と

自らが学ぶ意欲を持つことが信頼関係を築き的確な指

導ができるものと考えます。悪影響を及ぼす事象につ

いては、速やかに指導するとともに家庭と連携した規

範意識の定着に向け、粘り強く指導を続けていく。

【質問】

教育現場と家庭における個人指導とフォローの強化

が必要ではないか。三現主義に基き説得力のある対応で、時には厳しく、時には優しく心が通じる指導を。

【答弁】

教師と生徒の信頼関係を構築し教育相談機関の設定

に加え教職員の事務分掌を生徒指導強化に重点を置き

生徒指導担当者の授業を軽減し、学校全体での生徒指

導を統括できる専任者をおく計画をしている。

【質問】

奥山田小学校が4月から

宇治田原小学校と統合されるが、準備は抜かりなく万全か。具体的な取組みは。

【答弁】

子ども達の学習環境の変化に、児童と保護者の不安

を取り除くため、昨年10月、

本年2月に説明会を実施、また学習発表会・授業参観等にも保護者のご参加を頂いた。今後も子ども達に学習環境の変化が与える影響に十分配慮して、適切な対応を図っていく考えである。



校旗の返還

【質問】

環境が変わればいじめ問題やストレスなど、十分な気配りとフォローが必要である。特別な取組みは。

また、初めてのバス通学となるため安全対策についても問題のない対応を。

【答弁】

児童だけが新しい学校へ変わるのでは不安は消えな

いので、今まで慣れ親しんできた教師に指導相談でき

るよう教職員の配置も配慮していきたい。バス通学に

関しては朝の登校時は一便下校時は授業時間が異なるためコミニティバスを基本に三便運行する。また、安全対策から校門付近を発着する経路としている。

「シルバー人材センター」 成果と課題、今後の運営方針は

【質問】

発足後1年が経過して一

層の充実を図るため各種のシニアワークプログラムなども実施され多種にわたって就業されてきたが、成果と課題、今後の運営方針は。

【答弁】

当初71人の会員が、現在

100人となり、就業率は85%である。会員の技能の

向上と受注事業の拡大を図るため、各種講習会を開催し就業機会の拡大に努めている。受注促進が図られるよう町としても支援していきたい。

地域で支える

児童福祉の充実

児童虐待から子どもを守るには

【質問】

地域で支える児童福祉の充実において、子供の権利を守り、虐待などの防止を図るため関係機関との連携を図り適切な情報提供、相談体制の充実を図る。そこで本町における児童虐待の状況と対応マニュアルは整備されているのか。

【答弁】
平成17年には宇治田原町児童援助活動を展開していく目的で活動調整会を設置しマニュアル整備、児童相談所・民生委員・児童委員との連絡・調整の強化に取り組んできた。児童虐待の事象にあわせて代表者会

議や個別ケース会議等で検討・対策を講じている。
平成19年度からは虐待相談案件に係わる総点検の更

なる充実を図り支援を行うために「要保護児童対策地域協議会」を設置し、要保護・児童虐待の恐れのある児童の早期発見と事前防止に向けた迅速な対応を行う。

「とも」に育てる、ともに育ちあう茶木・チャキツプラン」において本町の子どもたちが健やかに育つことを願って子育てを支える地域づくりを実現するため、平成17年度から22年度の5年間の実施計画をたて取り組んでいるが現在の進捗状況は。

【質問】

「とも」に育てる、ともに育ちあう茶木・チャキツプラン」において本町の子どもたちが健やかに育つことを願って子育てを支える地域づくりを実現するため、平成17年度から22年度の5年間の実施計画をたて取り組んでいるが現在の進捗状況は。

平成17年度に次世代育成支援対策協議会を設立し、進捗状況や課題の共有、今後の取り組み予定などについて、意見交換と調整を行ってきた。

なかでも、「すべての子どもが健やかに育つ環境づくり」について母子の健康支援では、生後4カ月まで

の全戸訪問や育児・家事の援助、育児支援により、乳幼児の安全を図り、子供の心身における発達の促進に

町次世代育成支援活動はどうなっているのか

【答弁】

平成17年度に次世代育成支援対策協議会を設立し、進捗状況や課題の共有、今後の取り組み予定などについて、意見交換と調整を行ってきた。

なかでも、「すべての子どもが健やかに育つ環境づくり」について母子の健康支援では、生後4カ月まで

の全戸訪問や育児・家事の援助、育児支援により、乳幼児の安全を図り、子供の心身における発達の促進に

の全戸訪問や育児・家事の援助、育児支援により、乳幼児の安全を図り、子供の心身における発達の促進に



小林昭次
議員



すくすく育つ田原っ子

「発達障がい児の健全な養育は他の児童とともに生活することができるよう配慮すること」としている。本町における対応はどうしているのか。

【答弁】

子どもたちの発育や発達
の状況を把握し、早期発見と一貫した指導が求められている。障がい児保育については保育士を加配するとともに、療育教室では昨年度までの個別指導から集団体制の指導に変え、心理相談員、臨床心理士、保健師などが係わるなかで、発達相談、育児相談を行っている。今後とも保護者の精神的、身体的なケアと適切な支援を進めていく。

要保護児童への適切な支援はできているか

【質問】

自閉症やアスペルガー症候群などの広汎性発達障

いをもつ子どもに対して、

国は「発達障がい支援法」において市町村に対して

お年寄りの声をしっかりと聞いて 高齢者の居場所づくりを



高齢者、交流の場づくり

【質問】

お年寄りなどが普段、気が向いたときに気軽に集まれるような場所づくりが必ずと考えるが、どのように考えているのか。

【答 弁】

平成19年度は、試行として郷之口会館で65歳以上の

高齢者を対象に週1回程度の

の予定で高齢者の交流の場づくり事業を考えている。企画及び運営等の取り組み内容はボランティアによる運営委員会を組織し、地域の状況にあつたものとなるよう協議していく。

【質問】

地域によっては5〜6人のお年寄りが毎日、気軽に軒先を借りて集まっておられたり、それぞれの家にお邪魔して話をされているような例もある。こういう集まりについて行政がどのように援助をしていくのか、考えていく必要がある。また、実情をきちんと調査し、お年寄りの声をしっかりと聞くことが大切と考えるか。

【答 弁】

郷之口会館での試行的な交流の場づくりについては、地域にあつたものとなるよう、実情を調査する中で運営委員会において十分な協議をしながら推進していきたい。



安本 修
議員

平岡地区の山砂利採取は いつ終了するのか

【質問】

立川平岡地区の山砂利採取について、今年1月末までに完了する計画が、すでに延長されている。現況はどうなっているのか。どのように指導してきたのか。

【答 弁】

本年1月末までの事業完了が困難なことから、植栽などの作業が完了できるまでをメドとして、4月末日まで許可期限を延長した。現在、造成作業も順調に進んでおり、期限内で事業完了できる見込みである。

【質問】

事業が完了すれば採取場に至る仮の橋は撤去されることとなるが、見直しはまた町道の補修など、住民との協定、覚書を遵守させる必要があるが、どのように指導するのか。

【答 弁】

仮設橋については、事由が消滅すれば速やかに撤去すべきものと認識している。撤退業務が円滑に進むよう、また、地元住民と取り交わした覚書等に基づく約束が誠実に履行されるよう監視する。また、町道の補修なども確認が必要なことか

【質問】

ら、事業完了後も最終的に撤退するまで指導を続けていく。

糠塚地区の開発について、1年以上にわたって何の動きもない。どのような指導をしているのか、見直しは特に、場内に設置されている調整池は素掘りで、安全性からいっても大問題。対策は。

【答 弁】

現在、話し合いを持っているが、工事スケジュールが確認できない状況。引き続き事業者指導を重ねる。施設の十分な管理と安全対策が図られるよう、注視していく。

合併問題で住民との議論はすすんだか

【質問】

【答弁】

2市2町合併任意協議会による新都市建設基本構想は、この合併のねらいが住民の暮らしや福祉の向上、地元経済を発展させることでなく、第一名神高速道路建設を前提とした大型公共事業中心の開発優先のものであることがはっきりした。大久保自衛隊を移転させ、そこに新都市をつくるということだが、周辺地となる本町では、過疎化がすすみ、さびれるのではないか。また、住民の1番の関心事である税金や福祉、介護などは法定協議会でないと議論できないと切り捨てられた。情報が不十分な状態で、住民の真意が問えない意向調査は、ムダだと考えるが。

合併することで一体となつて取り組めるものや大きな効果が期待できるものを中心に位置づけている。大久保地域における拠点形成以外にも、企業誘致の促進や宇治茶を生かした活性化の取り組みなど、幅広く掲げている。税金や福祉関係の料金については、法定協において協議される。現実的には住民の負担を下げ、サービスのみを高めることは困難であり、提供するサービスの質などに応じた適正な住民負担を検討することが必要。

【質問】

町長は合併については、将来に悔いを残さないよう



今西久美子
議員

十分議論を尽くすことが大事といっているが、住民との議論はすすんだか。昨年の町制施行50周年記念シンポジウムで、パネラーの中学生が「合併しないでください。町長さんどうですか」と問いかけたが、町長の答えはなかった。あの場合は住民と議論するには、最適の場であったと思うが、町長は、いつ、どこで、だれ

と「十分な議論」をしようとしているのか。

【答弁】

今回の任意協は住民代表も加え、倍以上の構成でおこなっている。シンポジウムは、パネラーの主張を聞いて、会場の方が今後まちづくりについてともに考えていく機会であったと考えている。



町制施行50周年記念シンポジウム

障害者控除など、制度の周知を

【質問】

【答弁】

この間、高齢者には公的年金控除の縮小と老年者控除の廃止、住民税の非課税限度額の廃止、定率減税半減と一気に税負担が増える措置が続く、今後も負担増は続く。所得税や住民税には障害者控除の制度があり、本人又は扶養親族で障害者に該当する人がいる場合に、所得から一定額が控除されるが、周知されていない。

【答弁】

障害者手帳等を持たない65歳以上の寝たきりや認知症に該当する方が障害者控除を受けるため、基準を設け認定書を交付している。周知については、2月の広報紙に掲載したが、今後、いつそうの周知をはかる。

郷之口軍人墓地横の歩行者の安全対策を

【質問】

【答弁】

郷之口軍人墓地横の道路は、狭くカーブになっているところをトラックなどの大きな車が通り、たいへん危険。通学路でもあり、歩行者の安全対策は急務。地元区、関係機関と協議を。郷之口区長ならびに遺族会関係者などと十分協議を行う中で検討していく。

環境問題を

どう考えているのか？



森田木一
議員

監視カメラが有効に
活用されていないのでは

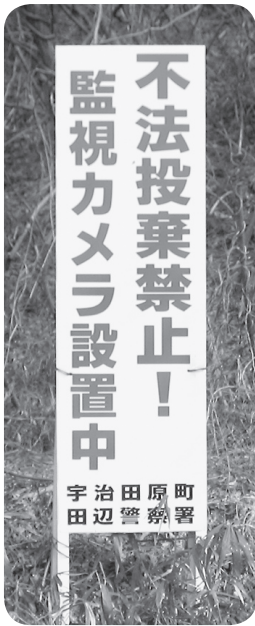
【質問】

80%以上が山林という宇治田原町内の各地において多くの不法投棄を見受ける。こんなとき夜間にも使え、移動ができる監視カメラが有効に活用できているのか。その効果と活用実績は。

【答弁】

森林組合、郷ノ口郵便局にも協力を要請し、不法投棄の情報提供をお願いして

いる。監視カメラは平成16年に設置して以来数件の検挙実績をあげている。同年12月に盗難にあい、移設をした後、車の不法投棄のほか3件の被写体を捕らえたが検挙にいたらなかった。今後とも設置場所等において検討をしていく。



不法投棄の実態

大津市新清掃工場の 現在の状況は

【質問】

以前から課題となっていた大津市の新清掃工場について、その後の進捗は。

【答弁】

昨年の6月議会で報告をした後、昨年末に挨拶があっただけで一切進展がなく依然不透明な状況である。

本町の環境保全計画は

【質問】

平成16年度より、環境保全計画が実施されているが、来年度は計画の5年目を迎える。計画どおり進捗しているのか。

【答弁】

地球温暖化をはじめとする新たな環境問題に対処し本町のすばらしい自然環境を後世に引き継ぐことを大きな使命として取り組みを進めている。

これまでに、取り組んだ一例を報告すると、自然環境分野の取り組みとして、美しい河川の維持では公共下水道が現在46%の普及率で整備を進めている。また野生生物の保護では「レッドデータブック」をまとめて住民の意識高揚を図った。その他数値目標を掲げた項目についてもおおむね順調に達成していると評価している。



ポイ捨て防止看板

飲酒運転の根絶を！ 「決議」を全会一致で可決

【要旨】

交通事故のない安全で安心して暮らせる社会の実現は、住民一人一人の切実な願いであるとともに、本町の長年の課題である。昨年の交通事故はほぼ横ばいの状態で、増加傾向には一定の歯止めがかかったものの、依然として高い水準で推移している。加えて、昨年は福岡県下において、幼児3名が亡くなるという飲酒運転による痛ましい交通事故が発生した。いまや飲酒運転根絶は国民すべての大きな願いとなっている。

本町議会は、ここに改めて交通安全意識の高揚を強く呼びかけるとともに、「事故のない安心・安全のまち」をめざし、住民とともに飲酒運転の根絶にまい進するものである。以上決議する。



広報編集委員会研修報告 研修踏まえ「議会だより」の いっそうの充実を

*平成19年2月14日(水)

*愛知県音羽町

*音羽町は人口9000人 議会だよりの創刊は昭和
弱、議員定数10人、広報 49年8月で、現在129
編集特別委員会は6人 号を数え数々のコンク

ルで入賞されてきた。中でも広報編集委員長の指導力とリーダーシップはすばらしく、永年にわたって委員長として携わってこられ、随所に特徴がでている。

*音羽町の議会だよりは一般質問を重点に、「追跡！一般質問その後はどうなった」、インタビュウでは「ご長寿万歳」を毎回掲載され、住民からの評判もよいとのこと。全体的にまとまりと工夫をこらしてつくりあげている。

*中でも一般質問をはじめとした、記事の見出し、写真のキャプションは、一目で何を物語っているかが判るよう、具体的かつユニークに表現されているのが印象的である。

*また、写真スペースを大きくとりながら、住民が多く登場し身近で親しみやすい。

*音羽町の広報編集特別委員会も積極的に視察研修をされていて、全国的にレベルの高い優秀、最優秀を受賞された議会へ出向いて、前向きに対応されている姿を目の当たりにし、レベルアップされているところは見習いたい。

*一方、編集の留意点として気遣いされている点は ①見出しは読みやすく、わかりやすく、②写真は大きく、人物が写っているものを優先 ③文章は短く簡潔に ④余白を有効に使う ⑤続者の目線で考える ⑥原則的にイラストは使わない。など研修会での内容を参考にしながら、今後とも読みやすい、住民の皆さんに親しまれる議会だよりをめざして頑張っていきます。



田原小学校 入学式



宇治田原小学校 卒業式



奥山田小学校 閉校式



インタビュー

奥山田小学校 最後の卒業生



むら しみん
村上 稯 理 くん

131年の長い歴史をもつ奥山田小学校が、児童数の減少などにより、今年4月に宇治田原小学校と統合されました。

今回のインタビューは最後の卒業生となった村上稯理くんが登場していただきました。

Q：奥山田小学校での学校生活はどうでしたか。

A：学年1人というのは全部自分でやらないといけないし、児童会長もはじめから決まっていたし、5年生5人をひっぱっていたのは大変だったけど、やりがいがあった。

Q：奥山田小学校は小規模校でいろいろな体験ができたと思いますがどうでしたか。

A：田植えや茶摘み、梅干しづくり（僕の提案）などいろいろやった。楽しかったのは収穫祭。もち米を刈って赤飯を炊いたり、おもちをついたり、地域の人が豚汁をつくってくれたり・・・おいしかった。

Q：趣味は。

A：晴れた日はキャッチボール。雨の日は町の図書館へ行って本を読んでいます。

Q：中学校生活はどうですか。

A：勉強や友達、先輩、部活など、不安はあったけど、思ったより大丈夫だった。クラブは野球部に入る予定。友達もできました。

Q：将来の夢は。

A：警察官か、企業に行つて社会人野球をしたい。

Q：理想の人は。

A：阪神タイガースの今岡選手。1年間でケガを克服し、立ち直ったところを尊敬しています。

編 集 後 記

宇治田原のまちは、まもなく新茶の香りたたくもとも活気づく時期を迎えます。今年が天候が不順で、体調をこわされて、新しい年度を迎え、入学や就職などで、新しいスタートを切った方もおられるかと思えます。どんなときも自分らしさを失わず、ご活躍を期待しています。

過日、広報編集委員会の研修で愛知県音羽町を訪ねました。いろいろときびしい指摘もいただき、今回は喧々諤々の議論をしながらの編集となりました。よりよい議会だよりを住民のみなさまにお届けしたいの思いからです。ぜひ、ご意見、ご感想をお寄せください。

(編集広報委員 今西)